



「地域の子 声かけ合って 見守って」

流山市教育委員会生涯学習部生涯学習課
青少年指導センター
〒270-0153 流山市中 110 番地
流山市生涯学習センター内
TEL 04-7159-5400 FAX 04-7159-9887

第3回流山市学校警察連絡協議会及び流山市小・中学校生徒指導主任研修会 「薬物依存症問題を考える」

講師：白川 雄一郎 氏（薬物依存リハビリ施設「千葉ダルク」代表）

9月28日（水）、流山市クリーンセンター・プラザ館において講演会を催しました。講師として、平成15年4月に松戸市で就労プログラムを目的としたスリークォーターハウスとして開設し、平成8年からは千葉市で活動をしている薬物依存リハビリ施設「千葉ダルク」代表 白川 雄一郎氏をお迎えしました。

《ダルクとは》

ダルク（DARC）とは、ドラッグ（drug＝薬物）のD、アディクション（addiction＝嗜癖、病的依存）のA、リハビリテーション（rehabilitation＝回復）のR、センター（center＝施設、建物）のCを組み合わせた造語である。覚醒剤、有機溶剤（シンナー等）、市販薬、その他の薬物から解放されるためのプログラムを持つ民間の薬物依存症リハビリ施設であり、全国に48カ所以上点在している。



《講演から》

- ①講師自身、23才から薬物（覚醒剤）依存に陥り、16年間で仕事も家庭も全て失ってしまった。
- ②いわゆる「禁断症状」はなく、いつでもやめられるという思いを持ちながら、いつの間にか依存症になっていた。
- ③入所してくる大半は“普通の子”であり、最初から覚醒剤や大麻に手を出している。（インターネットから入手できる）
- ④最近、処方薬（精神安定剤や睡眠導入剤等）や市販薬（風邪薬等）を用いて薬物に依存するケースが増えている。



薬物依存は、薬物使用による快感を脳が記憶していることによって起こるのです。脳が「一度覚えた快感」は一生忘れない。これが薬物依存の正体なのです。常日頃、子供たちに接している学校職員や補導員の皆さんにとって、とても考えさせられる講演会となりました。

実行活動のまとめ

（青少年ふれあい運動「第2回実行委員会」）

6月の「店舗調査」（青少年の入店規制及び有害図書に関する実態調査・協力要請）から始まり、9月に入り「青少年の店舗利用状況調査」（青少年の動向や、万引き等の初発型非行の状況を中心に青少年の規範意識を把握するための聞き取り調査）を実施することで、市内の“各地区における青少年に関する情報収集”を行います。さらに、現状と課題をまとめる「実行活動のまとめ」を市内8地区で各学校のPTAや補導員等が中心となって行います。ご協力いただいた店舗各位やPTA・補導員等の皆様、誠にありがとうございました。